

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年2月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300658
法人名	医療法人 昌成会
事業所名	グループホーム 和音
所在地	鹿児島県鹿屋市大浦町14169番17号 (電話) 0994-41-3778
自己評価作成日	平成25年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・施設は広々とした山間の落ち着いた環境にあり四季の風情を日々の介護に取り入れられ利用者の昔馴染みの味覚の楽しみつわぶき等も楽しんでいる。
- ・医療法人の運営している施設であり、協力病院として月2回の往診も導入、利用者の健康管理やリハビリを法人理事長の指示にて通院介助しているが必要時は専門医紹介の機会も得られるので安心して暮らせる。
- ・施設は集落の中にあり家並みの中を往来するので寂し過ぎず安心出来る環境にある。
- ・近隣住民の方々からは季節の野菜などを、持参下さったり、3B体操体操の講師(近所)を月1回おねがいし、回覧板も持ち回りで交流に努めている。
- ・法人のデイケアの送迎車を拝借出来るので戸外活動が利用者全員そろって参加出来る。
- ・毎日の日課として10:30~1時間程度リハ体操やレクリエーションにてレベル低下を防止、午後は、趣味活動などにて、自立支援その人らしく生活出来る様支援している。
- ・歌、踊、三味線などの特技ある職員がいて日々の活動や行事に活かす事が出来る。
- ・水無月(6月)は紫陽花が庭園いつぱいに咲き季節を教えてくれる。他の施設との交流の場となっている。
- ・鹿屋市の介護ボランティアの導入にて色々な方々の来所をお願いし楽しいふれあいと活動の場となっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年1月28日

- ・食事が楽しめるように、自家菜園で利用者と一緒に野菜を栽培して収穫を喜び、料理に使っている。毎月、みんなで作るおやつ計画もある。
- ・レクリエーションでリハビリ体操を導入しており、利用者の表情や言語に活力がある。
- ・年2回の防災訓練や毎月の自主訓練は、地域や消防関係者の協力を得ながら実施している。
- ・運営推進会議で 防災体制の取り組みの報告や、徘徊者の誘導について、意見や交換を行い、地域の協力体制が整っている。
- ・24時間医療連携体制が確保され、緊急時の対応が整っている。
- ・「和音たより」「エプロンたより」に活動報告や行事など分かりやすく報告して、家族との連携を密にしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	鹿屋市大浦町にある認知症対応型事業所として地域の特性を考慮した介護理念で入居者介護職員の提案に基づき作製し毎朝復唱し実践努めている。	利用者と職員で話し合っって作った理念を、毎朝、レクリエーションの始まる前に一緒に大きな声で唱和して1日が始まる。職員は理念を共有し、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大浦町つがひら岳の麓の上山部落内にあり施設へは集落の中の道路を出入りしているので挨拶を交わす、回覧板受け渡す等交流、時折、野菜等の持参や避難訓練時、参加下さる。	自治会に加入し、回覧板を隣へ届けたり、ホームで行なわれる敬老会などの行事に近隣住民を招待している。中・高校生の体験学習の受け入れや幼稚園児との交流もある。日常の散歩などで近隣の住民と挨拶を交わしたり、避難訓練も一緒に行なっている。近所の梅畑に出かけたり、野菜の差し入れ等、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	施設環境や介護人材を活かした認知症の知識や介護教室的な取り組み機会は得られないが運営推進会議時、研修報告や事例発表等で理解や支援の方法等に意見や質問に応答している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>施設活動上、運営状況を報告し各委員からの意見や質問を受けている。議事は会議録を作成し施設長に報告し協議事項は施設運営に反映する。</p>	<p>会議は定期的に行なわれ、行政・民生委員・町内会長・消防団長・家族・利用者等が参加している。防災無線機の設置や防火対策について等、議題も多く、出された意見はサービス向上に活かされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>調査報告や介護保険事業に関しては市町村担当者と連携し地域包括支援事業所には情報を頂いている。運営推進会議時も指導を頂いている。</p>	<p>市の開催する会議に参加して情報を得ている。介護保険やケアプラン・書類の更新時などに、連携をとって相談している。運営推進会議には食中毒や認知症への理解、避難時のベルト使用など指導助言があり、協力関係を築いて取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束を行わないことを職員全員が理解し現在は殆ど施錠していないが避難等理解出来ない方への対応として家族へ身体三原則を説明し生命に危機を及ぼす時は拘束の同意を頂いている方もいる。</p>	<p>毎月、身体拘束廃止安全委員会を開催、勉強会を3ヶ月毎に開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の拘束にも配慮しており、身体三原則を家族に説明して壁にはっている。日中の玄関の施錠はせずに、見守りで自由に出入りができるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については職員も理解しており虐待は行われていない。利用者の尊厳が図られる様な言葉使いや入浴時等身体チェックを重視し、月1回身体拘束、虐待等委員会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会（地域包括支援センター主催）に参加本年度も、一人の利用者様が成年後見人制度を活用されもう一人の方は公的な機関を紹介した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の問合せに関しては施設見学をお奨めし施設設備を案内、パンフレットを使用し内容を説明している契約に関しては重要事項説明書、契約書等で説明し改定時は家族会や書類で同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族が運営推進会議や家族会（年2回開催）に参加されるので意見や不満、苦情を出せる状況や時折、入居者様に要望などのアンケート調査をし反映している。	利用者や家族の意見は、入居時に把握している。運営推進会議や家族会、満足度調査でも対応している。家族への報告は各月発行するエプロンたよりや和音たよりで知らせており、家族等の意見は運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティングは施設長の来所で毎月第2木曜日に開催、部署会は毎月第1土曜日か入浴のない日に開催し、職員の意見を聞く機会とし反映している。</p>	<p>職員が管理者に個人的な事を含めて、相談できる環境にある。業務は日常のケアの中で、必要に応じその都度、相談や提案をしている。ミーティングなどでも施設長や管理者と気軽に話し合いができ、意見等は運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>施設長は毎月のミーティングで運営上や認知症介護上の指導をされ研修や資格取得等向上心を持って働き続ける為の助言もある。パート職員から非常勤職員への機会もあり希望する職員の意欲向上に繋がる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者、計画作成は職務に応じた公的研修に参加している。職員は介護技術などの研修に参加し研修伝達を行っている。施設長来所にて毎月ミーティングも研修機会とし職員間では（介護福祉士）を目指している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区グループホーム連絡協議会主催による研修会等地域との交流機会に積極的に参加や他施設（GH詩音、GH太陽の家）と交流（招待、訪問）にてサービス向上への取組みに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時は家族や担当介護支援専門員からの情報提供が多い入居前の本人や家族の施設見学、入院先等で面接を実施状況把握、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、入居前受診、入居時など家族と関わり信頼関係や入居前のアセスメント時ありのままの情報をいただく雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望があれば施設見学をお奨めし急がれなかつたり空室がない場合は空室発生時の待機者対応とさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の心身の状況を把握し出来る事は本人のレベルを見極めて共に行っている。出勤時の挨拶に始まり年長者と共に生活をしている姿勢で感謝の言葉を忘れないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	活動状況は報告書やお便り新聞等家族へ送付し理解をいただく努力をしている。家族の面会は歓迎し近況報告の場としている。本人の誕生会時は昼食を家族と共にしていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	布団、置物、椅子など馴染みの物品の居室への持込をお願いしている。故郷訪問は外出時などにドライブとして行っている。墓参りは家族と共にされている。	馴染みの友達の訪問や体操の知人とのふれあい、毎月の避難訓練の時など、面会している。外食や故郷訪問・美容室の支援もあり、馴染みの人や場の関係継続が、とぎれないように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年長者の共同生活の場所でありその人らしい支援に努めているが趣味や個性に配慮した和やか雰囲気作りを目指している。利用者で自発的に利用者のお世話される方、自室でお茶会を開かれる方もおられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院される方もあり家族との関わりを配慮しながら支援に努めている。長期入院の方は再入居の申し込みを受けている。不幸な転帰となられたら方の通夜、葬儀参列などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向を伝えられる方への対応はその都度対処、入居者様主催による総会にて意見を反映し調査も実施し思い希望の把握に努めている。把握の困難な方は家族の情報を得て対処している。	日頃のケアの中の言動で、思いや意向を把握して、個別に思いを記帳している。把握の困難な場合は、家族に聞いたりしぐさや表情などで、本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当介護支援専門委員からの情報をエアながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や担当介護支援専門委員からの情報を参照しながら日常生活の状況を観察し出来る事出来ない事を見極め総合的に把握する様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設長来所のある毎月のミーティング時にケースカンファレンスを開催し出された意見は介護計画に反映している。毎月各居室担当者と計画作成3ヶ月毎に計画作成によるモニタリングにより介護計画に反映している。	入所時に本人や家族の思いを聞き、介護計画を作成している。利用者への担当制を導入し、ケアプランのチェックをしている。毎月のミーティングの時ケアカンファレンスで、意見や気づきを介護計画に反映している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、状況の変化時はその都度計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者の日々の状況は申し送り、利用者ごとの介護記録、業務管理日誌、申し送りノート、モニタリングなどで職員間で情報を共有しながら介護を実施している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療法人が母体で健康維持（往診、訪看）やリハビリ、電気治療など通院介助を行っている。本年度も通所リハの御利用者様との交流やGH詩音との季節的な交流を楽しく実施取組んでいる</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>徘徊者対応は警察、消防、町内会長、民生委員、近隣住民の協力が得られる体制がある防災、避難訓練は町内会、消防分団が理解あり。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人の心身の状況から協力医療機関以外の精神科、眼科などを必要とされる方があり原則家族の同伴となっている。受診時は介護経過の情報提供を行い医療が受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医は契約時に本人と家族に聞いて決めている。協力医療機関から月に2回の往診がある。精神科や眼科などへは家族が同行している。家族の都合がつかない時は職員が同行支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、ホーム内ケアユニットに集めた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制としている。協力医療機関や訪問看護ステーションの看護師と情報交換して日常の健康管理や医療活用を支援している。職場内の看護師からも早期対応など指導、指示あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際しては施設介護経過の情報提供を行い医療機関の相談員と連携する。環境変化は認知症への影響あり退院に際しては退院時協力医療機関の受診を行い連携しておく。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関や訪問看護を利用した終末期の援助体験がある。利用者の重度化に際しては個別の対応と方針の共有や家族のGHの機能の理解と協力が必要である。重要事項説明書に明記し取り組んでいる。急変時の対応もご家族の意向を书面化している。	重度化や終末期における支援は、入居時に家族に説明し、重要事項説明書に明文化している。症状の重度化により、段階的に家族と相談しながら、家族の意向を大切にして対応している。急変時の対応は、日頃から医師による指導を受け、職員で共有している。過去に看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や避難訓練は毎月開催、実践力を身に付ける様小おこなっている。応急手当は毎月ミーティング時施設長（医師）により指導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の参加のある防災訓練時は町内消防関係者や近隣の住民の参加協力も頂いている。土砂災害危険地域の為、運営推進会議時に話題とし協力をお願いしている。毎月行っている。</p>	<p>毎月、防災も含めて避難訓練をしている。夜間訓練や予告なしの訓練も職員から提案が出て実施している。職員も日頃から消火器の使い方や避難経路・連絡網の確認など、訓練している。災害時の水や食料の備蓄・夜間用のライト付きヘルメット・懐中電灯など定位置に準備している。地域にも避難訓練の協力ができている。スプリンクラーや防災無線の設置がある。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者のプライバシーに配慮して本人の意向を尊重してケアしている。職員が居室に鍵をかける事はないが夜間などプライバシー確保の為、利用者が施錠される事はある。</p>	<p>ミーティングや勉強会で、人格の尊重とプライバシーの確保について研修し、言葉のかけ方等に配慮し、馴れ合いにならないように、また、言葉の虐待に注意している。日中の玄関の施錠はせずに自由に出入りできるようにしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者の希望が一方的な要求として時に見られることがある。全体的な状況を勘案して利用者の要求が不快なく納得が得られるような対応することに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	役割を持つて仕事をしたい希望の方には無理のないように支援するレクリエーション等無理のない誘導を行う。入浴（ゆつたり希望に沿った時間10～17時）不満が出ないように配慮する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	化粧や身だしなみに配慮される生活習慣の方がいる反面無い方もいるが年齢年齢相応の整容配慮している理容は利用者の知人関係者が施設内で散髪される。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備や調理、盛り付け、おしぼり準備、台拭き、下膳出きる方得意な方自発的にされる方誘導を要する方など摂食、嚥下障害ある方は食材や容器等を考慮している。	敷地内に菜園があり、栽培や収穫を一緒に行い、収穫した野菜などを使って調理を楽しんでいる。台拭き・下善など、一緒に行っている。行事計画に食が楽しめるように、喫茶、鏡開き、庭やウッドデッキ使用のお茶会など雰囲気を変えて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表により利用者の年代に配慮した食事作りを目指している摂食、嚥下の状況により刻み粥食提供も行う摂取量により補食や代替食（嫌いな方）ども差し上げて水分もチェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアへの協力は殆んどあるが介護拒否のある方もある。やむを得ない場合は嗽や口腔用ティッシュを使用している協力医療機関の指導体制も導入している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の時間誘導、オムツの選択、ポータブルトイレ併用など個別対応に努め排泄の失敗減、オムツ使用減にも努めて排泄の意思表示の十分出ない方は言動等のサインに注意し昼間は全員トイレ使用である。	排泄パターンをチェック表で把握して、声かけや誘導をさりげなく行い、昼間は全員トイレ誘導をしている。尿取りパッドを厚い物から薄い物に代えて尿意が回復した事例がある。意思表示のない利用者には表情や動きを観察してトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	認知症高齢者は使用薬剤や活動状況などで便秘になり易い為排便チェック、水分補給、繊維の多い野菜を食材使用すると共に散歩、腹部マッサージを行い便秘予防に努めている。頑固時は緩下剤、浣腸を医師の指示にて		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	月、水、金曜日を入浴日として職員を増員して対応電気温水器使用でいつでも入浴は出来る体制である入浴時間は個別希望に配慮し入浴前の体調、入浴拒否は再度誘導を試み対応している。	週3回の入浴を基本に、希望があればいつでも入浴できるようにしている。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、介助者を変えたり、アトピー性皮膚炎の利用者にも配慮して入浴支援をしている。職員2名で入浴介助をする場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	生活習慣や環境調整など個別に 配慮し援助している。夜間トイ レ使用后居室がわからない方は 居室誘導を行う。休息される方 は長時間にならないように		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	個別の処方箋により用法・用量 等の服薬管理を行い、服薬の準 備、確認、記録者は業務日課に より定まっている。状態変化は 主治医に報告し指示を得る服薬 管理、ミスに注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	外出、散歩、ドライブ、リハビ リ等外での活動を好まれる方、 工作細工、歌等室内を好まれる 方などある。個別の嗜好や生活 歴を配慮した役割楽しみごとの 援助に務めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	リハビリの為、協力病院へ週2 回程度外出される方が多い。散 歩、ドライブ等希望される方の 援助を行っている。初詣、花 見、ソーメン流し、足湯等、外 で楽しめるように年間計画で 行っている。御本人の要望や感 染症などを考慮、買物を実施し ている。	日常的には近隣の散歩や買い 物・医療機関へ受診に出かけて いる。年間計画で花見や足湯・ 初詣・演芸大会にも同行支援 している。関連のグループホー ムとの交流や夏祭り・運動会・ 夕涼み・自衛隊の資料館など にも、家族の協力も得て出か けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の理解を得ながら本人の希望があれば買物支援を行っている。お金は2人の方は所持されているが他の方はその都度預かっているお金からお渡ししたりし職員が管理している</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>難聴の方が多く自ら電話される方はないが電話希望時は、職員と共にされ話しされる。家族から来た電話での対応の出来る方はある。名前は書けるが手紙の書ける方は1名のみである。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食事やくつろぎの空間として過される時間の長いリビングには季節の花を飾り日めくりカレンダーも掲げ雰囲気作りをしている。テレビはリビングにあり自由に見ることは出来るが音量や食事時の使用には注意しトイレや浴室は清潔保持、夜間の照明や物音には配慮している。</p>	<p>リビングは天井が高く広い。炊事場が対面式になっており、食事の準備をしながら利用者との対話ができる。移動式の長テーブルやソファが設置されている。外出したときの集合写真や日常の写真を壁に貼り、利用者の手づくりのちぎり絵等の作品や季節感のある飾りつけがなされている。リビングからテラスに出られ、くつろげる空間になっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間の食卓の席次はほぼ決まりソファを好まれ居場所とされる方もある。気の合う利用者同士ではリビングで雑談や工作細工、洗濯物たたみなど職員とされるなど交流されている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の家族が思い出の写真や、生花を持参されるが整理、手入れは職員の援助が必要である。仏具や衣装ケース、座椅子など置いて居心地を工夫されている利用者もある。</p>	<p>利用者と家族が相談して持ち込まれた家族写真や置物・千羽鶴・カレンダーなどが飾られている。畳の部屋が多い。窓から四季の変化が望まれ季節感を味わえる。個性のある部屋づくりと布団のたたみ方など几帳面な利用者の一面も見られる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は浴室、トイレ、廊下等手摺を設置し床はバリアフリーとして安全に出来るだけ自立した生活が送れるように配置している。場所誘導の貼り紙や安全な環境作りに配慮している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない